

自分の考えをもち、ともにかかわり合い、高め合う児童の育成  
～深い学びのための、知識や考えをつなぐ話合いの実践～

埴町立埴小学校 教諭 近藤 靖子

## 1 研究の趣旨

新学習指導要領が示され、新しい時代に求められる資質・能力や「主体的・対話的で深い学び」の大切さが強調された。学校教育目標の具現化や児童の実態から考えても、一人一人の児童が課題解決に対しての自分の考えをもち、お互いのよさを認め合い、協力し合って課題を解決していく力を身に付けさせることが重要であると考え、本主題を設定した。子どもたち一人一人の学力向上を目指し、以下に述べるような仮説を設定して、授業研究を行った。

### 研究仮説

授業において、一人一人の児童の学びを丁寧に見取りながら、次の3つの視点で手立てを工夫していけば、児童は友達とかかわり合うよさを感じながら、考えを広げたり深めたりすることができるであろう。

【視点1】主体的な学びが生まれる単元構想

【視点2】考えを深めるためのつなぐ話合い

【視点3】学びを確かなものにするための振り返りと習熟の時間

## 2 研究の概要

### <研究内容>

#### (1) 主体的な学びが生まれる単元構想

- ① 単元を見通して主体的に学習するための単元計画の工夫
- ② 基礎・基本となる学習とそれを活用して考える学習の位置付け

#### (2) 深い学びのための学習過程の工夫

- ① 意欲を喚起する学習課題
- ② 自分の考えをもつための自力解決の時間と個に応じた支援
- ③ 考えを深めるためのつなぐ話合い
- ④ 学びを確かなものにするための振り返りと習熟の時間

### <研究方法>

「授業スタンダード」を活用し、授業実践を通して教師一人一人の授業力を高めるとともに、児童の確かな学力向上を目指す。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

研究の2年目。「深い学びのための、知識や考えをつなぐ話合いの実践」に特に力を入れて研究してきた。今年度の研究を総括的にみると、教師と児童共に高い意識をもって学習を進めてきたことが分かる。一人一人のもつ能力は様々だが、課題に対してのそれぞれの知識や考えをつなぐことによって、考えが深まり、最も良い考えを創り上げる姿が授業の中でたくさん見られた。児童の意見を大切につなごうとする教師の意識も高まり、話合いでは「他者説明」や「問い返し」などを有効に活用しながら、考えを共有・吟味させることができた。

また、話合いの際には、より構造的な板書を目指し、思考過程を可視化することで、子どもたちは、考えを共有したり吟味したりすることができた。

### (2) 今後の課題

今後の課題として、一年間を見通した単元構成のあり方を更に考えていく必要がある。限りある授業時数の中で児童一人一人の学力を確実に伸ばしていくために、学習のねらいを明確にし、より効率的で教科横断的な単元計画を工夫していかなければならない。

授業では、児童のよさや思いを引き出し、考えをつないでいくコーディネートについて更に研修を深めていきたい。